

(4) 平成21年度決算の状況

水道事業会計

(1) 総括事項

本市の水道事業は、給水人口の減少や景気の低迷及び節水意識の定着等が影響し、使用水量は平成6年をピークとして年々減少傾向にあり、料金収入も同様に減収となってきました。

このような状況下で、安全で良質な水の安定供給を図りながら、歳出面においては経費の節減等による経営の合理化に努める一方、歳入面においても積極的な収納確保に努めた結果、今年度も利益を計上することができました。

また、今後の課題として老朽化した施設の改築更新が必要となるため、計画的な施設改良に取り組んでまいります。

(ア) 営業

本年度の有収水量は、3,574,506 m^3 （1日平均9,793 m^3 ）で、前年度と比較して100,187 m^3 （2.7%）の減少となりました。

(イ) 建設改良（消費税及び地方消費税込み）

本年度は、施設の改良工事等に総額で66,897,145円（うち消費税及び地方消費税3,185,572円）を支出しました。

本年度に実施した主な工事は、以下のとおりです。

・紫外線消毒装置設置工事（平成21・22年度継続工事）	24,024,000円
・東栄1丁目地内配水管改良工事（繰越工事を含む）	10,558,800円

(ウ) 経理の状況（消費税及び地方消費税抜き）

平成21年度の収益的収支は、収入総額513,742,564円、支出総額480,060,765円で、差引き33,681,799円の純利益となりました。

当年度における収支の状況は次のとおりです。

収益的収支	収入総額	513,742,564円
（消費税及び地方消費税抜き）	支出総額	480,060,765円
	差引利益額	33,681,799円
資本的収支	収入総額	73,492,898円
（消費税及び地方消費税込み）	支出総額	136,973,042円
	差引不足額	63,480,144円

資本的収支の不足額63,480,144円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額3,307,138円、過年度分損益勘定留保資金60,173,006円で補てんしました。

工業用水道事業会計

(1) 総括事項

今までは、第2期工業用水道事業の企業債償還利息及び減価償却費が財政を大きく圧迫していましたが、平成20年度から追加の給水契約を締結し、財政面の改善が進んだことで収支が好転し、本年度は利益を確保することができました。

さらには、当面の資金不足を解消するため、資本費平準化債等の起債を発行することにより、起債償還額の平準化を図りつつ、経営の健全化に努めています。

また、今後において老朽化した施設の改築更新が必要となってくるため、計画的な施設改良を実施し企業への安定した水の供給確保を行うとともに、本市の産業経済の活性化に努めてまいります。

(ア) 営業

本年度の有収水量は、14,313,768^m（1日平均 39,216^m）で、前年度と比較して681,820^m（4.5%）の減少となりました。

(イ) 建設改良

本年度は、施設の改良工事等に総額で12,848,850円（うち消費税及び地方消費税611,850円）を支出しました。

本年度に実施した主な工事は、以下のとおりです。

・送水ポンプ2,3号用電動仕切弁・逆止弁改良工事 10,500,000円

(ウ) 経理の状況（消費税及び地方消費税抜き）

平成21年度の収益的収支は、収入総額546,301,414円、支出総額516,307,545円で、差引き29,993,869円の純利益となりました。

なお営業外費用中、企業債利息154,770,829円の財源にあてるため、未売水企業債利息債50,700,000円を借り入れました。

当年度における収支の状況は次のとおりです。

収益的収支	収入総額	546,301,414円
(消費税及び地方消費税抜き)	支出総額	516,307,545円
	差引利益額	29,993,869円
資本的収支	収入総額	175,066,000円
(消費税及び地方消費税込み)	支出総額	371,311,367円
	差引不足額	196,245,367円

資本的収支の不足額196,245,367円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額611,850円、過年度分損益勘定留保資金98,526,711円、当年度分損益勘定留保資金97,106,806円で補てんしました。

公共下水道事業会計

(1) 総括事項

公共下水道は住民が安心して快適な生活を営むうえで必要不可欠なものであり、その良好な生活環境の維持と公共用水域の水質保全を図るために、施設の改築更新や維持管理などを行いながら事業運営を行っています。

また、本市の下水道整備は地方の小都市としては比較的早くから事業展開を行ってきたことで、市街化区域内においてはほぼ整備が終わったものとなっています。

その半面で、施設の老朽化による改築更新費の増大や下水道使用料が年々減少していることで、下水道経営は非常に厳しい状況となっていますが、経費の削減や効率的な運営に努めた結果、今年度も利益を確保することができました。

今後も安定した事業経営を行うために、さらなる経営状況の改善に努めてまいります。

(ア) 営業

本年度の有収水量は、3,229,090^m（1日平均 8,847^m）で、和木町からの受入水量は、1,696,070^m（1日平均 4,647^m）になりました。

本市では、区域内水洗化率99.6%を達成し、人口普及率も93.7%であり、全国的に見ても高い水準を維持しています。

(イ) 建設改良（消費税及び地方消費税込み）

本年度は、施設の改良工事費に総額で 219,463,839円（うち消費税及び地方消費税 9,832,670円）を支出しました。

本年度に実施した主な工事は、以下のとおりです。

・合流改善雨水滞水池設置（躯体）工事	72,000,000円
・大竹4号雨水幹線布設工事	10,158,750円

(ウ) 経理の状況（消費税及び地方消費税抜き）

平成21年度の収益的収支は、収入総額 798,908,875円、支出総額 794,881,800円で、差引き 4,027,075円の純利益となりました。

当年度における収支の状況は次のとおりです。

収益的収支	収入総額	798,908,875円
（消費税及び地方消費税抜き）	支出総額	794,881,800円
	差引利益額	4,027,075円

資本的収支	収入総額	302,388,145円
（消費税及び地方消費税込み）	支出総額	574,268,979円
	差引不足額	271,880,834円

資本的収支の不足額 271,880,834円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 4,637,547円、過年度分損益勘定留保資金 79,554,420円、当年度分損益勘定留保資金 187,688,867円で補てんしました。